

# ニューノーマル期の 大学間学生交流の ポリシーメイキングの 概念化を模索して

お茶の水女子大学 櫻井勇介

2021年8月22日

スライドへのアクセスはこちら[bit.ly/3jN6nFI](https://bit.ly/3jN6nFI)

国際共同研究加速基金「大学間教育交流の  
ニューノーマル；各種プログラムの再定  
義」（20KK0052 研究代表者：近藤佐知彦）

# 背景：COVID-19下の大学国際化

## ■ 大学授業のオンライン化

- 新たなニューノーマルとして定着（COIL）
- 学生経験や認識を明らかにする研究は増加

## ■ 協定学生交流の停止

## ■ 再開をめぐる意思決定における不安定な状況

- 学生交流は完全に消失はしない
- どう大学間学生交流を維持していくか

## ■ ニューノーマル期の大学間学生交流再開のポリシーメイキングをどのように理解できるか検討したい

- これまでの大規模災害における大学間学生交流の先行研究をシステマティックレビューの手法で探索、理論的基盤を収集



# 本発表の主眼

- ここまでの成果を共有

- **他の検索語**の可能性

- 検索語によって、**新たな論文が抽出**される可能性

- 既に**造詣がある方**から

- **参考となりうる理論的基盤**学ぶ機会に

# 手続き

- 大規模自然災害発生時の大学間学生交流のポリシーメイキングに関わる査読付研究成果（英文）を網羅的に収集
- ERIC、EBSCOhost、Scopus
- **4種類**の検索語群「#1 AND #2 AND #3 AND #4」

テーマ	検索語
#1 学生交流	"student mobility" OR "student exchange" OR "exchange program" OR "study abroad"
#2 政策	Policy
#3 高等教育	University OR "higher education" OR "tertiary education"
#4 自然災害	disaster OR covid OR pandemic OR coronavirus

- **論文題目、要旨、キーワード**から抽出される論文を収集



# 実際の検索方法 (例) EBSCOhost

論文タイトル

要旨

キーワード

#1 学生交流

(TI ("student mobility" OR "student exchange" OR "exchange program" OR "study abroad" ) OR AB ("student mobility" OR "student exchange" OR "exchange program" OR "study abroad" ) OR DE ("student mobility" OR "student exchange" OR "exchange program" OR "study abroad"))

AND

#2 政策

(TI policy OR AB policy OR DE policy)

AND

#3 高等教育

(TI ( University OR "higher education" Or "tertiary education" ) OR AB ( University OR "higher education" OR "tertiary education") OR DE (University OR "higher education" OR "tertiary education"))

AND

#4 自然災害

(TI ( disaster OR covid OR pandemic OR coronavirus) OR AB ( disaster OR covid OR pandemic OR coronavirus) OR DE ( disaster OR covid OR pandemic OR coronavirus))

# 結果：理論的基盤が未開拓か

- **13件**の論文が抽出
- 論文を読み、**内容**を検討
- 今回の研究目的に合致する**理論的基盤を用いた研究は1件もなかった**
- この結果を踏まえると...
  - 大規模災害時の大学間学生交流のポリシーメイキングの実態を体系的に把握するため**理論的基盤の欠如**
  - 知見の集積が行われていない
  - 知識の体系化、実践の包括的な理解には、**他領域からの応用・その精緻化が必要**



# その後...

- **「#4 自然災害」の検索語を用いず**に  
文献の検索（文献は2000件程度）
- 参考になりそうなもの
  - **Cooper (1989)**の言語計画政策の枠組み
  - **Kingdon (2011)**の「**Multiple Streams Framework**」
  - **Stensaker et al. (2020)** 「**Managerial-Disciplinary-Stakeholder**」

# Cooper (1989)の言語計画政策

## ■ 言語計画政策の枠組み

## ■ 政策構築の分析には：

- **誰が**
- **なぜ**
- **どんな決定**をし
- **どのように**
- **どのような条件下で**
- **どのような結果を念頭に**政策構築を行うかに  
注目



# Multiple Streams Framework

(Kingdon 2011)

■ 【政策決定過程の理解】 以下の3つすべての**機が熟すこと**で、新たな意思決定や変化がもたらされる

1) **Problem Stream** : 特定の問題が表面化する事象

2) **Policy Stream** : 理想の希求に現実的に取られうる方策や実現性、

3) **Political Stream** : その政策が左右する社会の構成員の態度

# Managerial-Disciplinary-Stakeholder (Stensaker et al. 2020)

- 【政策決定要因】 **3つの視点**が重要
  - **Managerialの視点**：教育組織が果たすべき役割を考慮する
  - **Disciplinaryの視点**：専門的見地が政策決定にどのような役割を果たすか
  - **Stakeholderの視点**：どのような成果が生み出されるか



# ハイライト

- **大規模自然災害発生時**の大学間学生交流の**ポリシーメイキング**に関わる査読付研究成果（英文）を網羅的に収集
- 現象を体系的に把握する**理論的基盤が未開拓か**
- 本研究の**理論的基盤**となりうるものを**探索中**

# 文献情報

Cooper, R. L. (1989). Language planning and social change. Cambridge University Press.

Kingdon, J. W. (2011). Agendas, alternatives, and public policies (Updated. Glenview, IL: Pearson, 128, 251-257.

Stensaker, B., Frølich, N., & Aamodt, P. O. (2020). Policy, perceptions, and practice: A study of educational leadership and their balancing of expectations and interests at micro-level. Higher Education Policy, 33(4), 735-752.